



TITLE:

京都古地圖の研究(二)

AUTHOR(S):

[藤]田, 元春

CITATION:

[藤]田, 元春. 京都古地圖の研究(二). 地球 1930, 13(2): 106-123

ISSUE DATE:

1930-02-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/183720>

RIGHT:

りも少しく高温であつた。

主 要 文 献

Bullock, R. N. Note to accompany Some Fossils from Japan. Quart. Jour. Geol. Soc. 1861. vol. 23. p. 46.

和歌山縣紀伊國化石及其產地、地質學雜誌 明治三十二年 第六卷百六十四頁

大築洋之助 二十萬分の一 那智地質圖幅及説明書明治三十七年。

M. Yokoyama, Tertiary Fossils from Kii. 日本地質學地理學輯報 大正十二年 第二卷 第三號 四十七頁

石川成章 南紀湯崎溫泉 地球 大正十五年 第五卷四百三十九頁

中村新太郎 日本化石產地表(二、和歌山縣) 地球 大正十五年 第五卷五百二十七頁

石川成章 南紀瀬戸臨海研究所行幸記 地球 昭和四年 第十二卷九九頁

京都古地圖の研究 (二)

藤 田 元 春

第五期 (十九世紀末)の作品

◎改訂 京都區分一覽之圖

福富正水校正
附山城八郡丹波三郡

全一枚

大さは大繪圖の二分一である、即ち一町を四分とした一萬分一の縮尺である。しかし銅版である

から、大繪圖よりも却つて鮮明である。その附言が面白い。

一、京師ノ圖舊來刻成頗多規矩蓋シ完備セリ、然ルニ時勢沿革アリ地形變換アリ時トシテ更正セザルヲ得ズ。維新以降土地の區畫大に釐革ス因テ今諸圖ヲ參考シ以テ之ヲ改訂ス題シテ京都區分一覽ト云フ。

一、市外山城八郡丹波三郡ヲ附ス惟上下京伏水ヲ彩スルハ各區ノ分域ヲ認ルニ瞭然タランヲ欲シテナリ。

一、此圖特に市街ノ區域ヲ指示スルヲ要トス、郡村ノ如キハ固ヨリ未ダ整頓ニ至ラズ、且刻成急ニシテ忽卒工ヲ竣ム乃チ紕謬滲漏斗ルニ斗量ナラン極メテ陳妄其罪遁ル所ナキヲ知ル、覽觀ノ君子苟モ是正シ幸ニ明誨ヲ賜ハ則復改刻セシムベキ而已 明治六年七月官許 著者識
明治九年四月十八日出版版權御願 定價金三十錢
同年四月廿九日 版權免許

高知縣士族上京第三十區橘町二百三十三番地

校 正 者 福 富 正 水

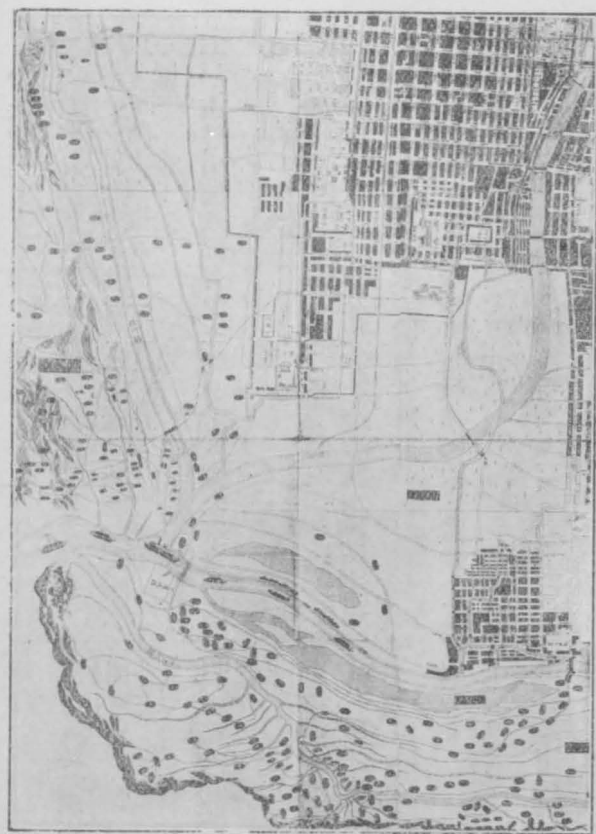
京都府平民上京第廿九區前之町四百五十二番地

出 版 人 村 上 勸 兵 衛

かうした次第で、原圖は明治六年の清書である。いかにも郡部は鳥瞰圖的にいれてあつて整頓に至らない。たゞ京都市街圖の區域を指示するの要指に従つたものである。著者が從來の例に従つて

『校正』と記し、しかもその定價を參拾錢としたことは誠に面白い。京都の市街圖はかうした明治の初年から、貳拾錢乃至參拾錢、それが今日でも小賣の標準である。あまりよい地圖が坊間に出現してこない理由がよめると思はれる。

著者福富正水はこの後も引きつづいて、京の地圖家であつたと見え、明治十二年十二月御届、同



十三年一月出版の區劃改正京都之圖といふのを下京、中ノ町、辻本定次郎から發賣してゐる（これは三高圖書室の藏本である）。その大さは二萬分一（一町を二分）の市街圖である。かうした同類の地圖で同じく明治十二年に風月堂から出版した橋本澄月の「京都府區組分細圖」といふのもある。大さは一町を三分、約一萬五千分一である。いづれも銅版である。しかしこれらの類の

中で、明治六年製圖一萬分一福永版ほど面白いものはない。彩色がカツバ摺であることは既述した通である。

予はこゝで本圖の解説を試みるであらう。

第一 御土居

天保二年の細見圖に既に明瞭な御土居がでてゐるが、その以前の京都圖には之を缺いたのが多い。本圖は天保版の跡をうけて太い黒線を以て之を指示する。

豊臣秀吉が京都を修理するに當つて、之をつくつたもので「近衛信尹公記」天正十九年の條には「天正十九年壬正月より洛外に堀をほらせらる、竹をうへらるゝことも一時也、二月に過半成就也、十の口ありと也、此事何たる興行ぞと云々、惡徒出世之時（はや鱈）をつかせ、それを相圖に十門をたて、其内を被捲爲と也」

と説明してある。「勸修寺晴豊」の日記、天正十九年二月二日の條にも、

「京中總ほり口六十間の由申候」

と出てゐる。西洞院時慶卿も二月廿三日の條に

日暮歸宅京廻の堤を始て見申候

と書いた。「京都舊記録」には、

洛中四邊土居之事、文祿元年高麗陣之時、秀吉公は肥前之名護屋之城に御在陣被爲成、高麗の都の構、本唐之様子などを被爲聞召、細川玄旨法印等に御相談有之、其後京都之四邊に土居を築き、是に竹を植え七口を開き是を惣土居と言、鴨川の西北より堤を築き皇都の構となる。

東粟田口、坤東寺口、西丹波口、北清藏口、良鞍馬口、北大原口、東荒神口

と論じてゐるが、これは事を征韓によせて語つたもので、天正十九年には既に出來てゐるから、文祿の役との關係は誤謬であると見てよい。しかして天正に秀吉公が行なうた京都の都市整理の結果は、この御土居のみでなく寺町へ洛中の寺を移して寺院を整理し、五條や三條の大橋を架し、御幸町を新に通じたといふのであるから、新しい京都再建の大事業であつた。お土居を設けた原因は、素より信尹公の云はれる通り、防衛であるが蓋し古への羅城の再興であつたと考ふべきである。この事は西田博士が既に京都府史蹟勝地調査報告書第三冊に評論されてゐるのに従ふべきであらう。

お土居の長さ五里二十六町四間一尺三寸五分まことに洛中を四周して蜿蜒として長蛇の如きものであつた。今その元祿の實測圖が京大國史研究室にある。二百分一の縮圖でいかにも細大洩らさずのせてある。しかし不思議にも第二類及第三類の地圖の多くはこれを缺いてゐる。漸く貞享の京大繪圖になつてその略形がでる。それには、

此黒すじ土手なり、七千間の餘、幅四間有。

と注記してゐるから、これ無關心にしたわけではないが、市街丈けは分數縮尺に合しても、市外にはさうした縮尺を及ぼすほど製圖觀が進歩しなかつたために、特にその北邊は實際とはちがつたものになつたのである。天明版にも之に従つて點線で京惣まはりとしるしてはゐる。

しかるにさうした地圖も天保になると、その北邊は正しく縮尺に合し明瞭に且正しく畫かれてゐる。これは、當時天下將に亂れんとして、都市の防備を思ふ念願の發露であつたに相違ない。この事は既に述べた通りであるが、しかし時代と共に地圖に對する正しい觀念が徐々に發達した結果で

あると見るべきであらう。

お土居はその後市町の發展に伴つて、あちらこちらと取り去られる所ができた。元來天正度のお土居は東方寺町の東、加茂川との間にもあつたが、寛文年中板倉内膳正重矩が所司代となつてゐた時、加茂川までが京都市内に入つてしまつた。河原町末廣町古記縁に曰く、

以東方封疆爲民家後。自是以東限賀茂川、西岸築石垣、爲堤防、故洛中之東賀茂川限に相成

即ち今の河原町がこの頃になつて出來た。茲に於てかお土居を切つた所も出來たので、切通しといふ地名が出來た。現に府立第一高等女學校の南に切通しといふ町名がある。又川に沿うて新お土居も出來た。丸太町の川端と枳殻邸裏通東一丁下ル所に、今も土手町の名がある。これはかうしたお土居の變化によつて、新に市區がそこに出來たことをつづるものではないか。

かやうにして加茂川縁りは最も早く破れたけれども、明治の初年には猶北から西、西から南へかけてその殘存せるものが多かつた。しかし大正以後になつて、このお土居は段々取り去られてしまひ當初の面影を見んどせば、北野神社附近から野口村あたりに行かねばならぬやうになつた。しかし野口附近でも近時益々取り去られて、殆どその過去を失はんとしてゐるのが現状である。史蹟地として可然き地區が保存されるべきを願うのは予一人のみではあるまい。

第二 汽車と汽船

第二に本圖の特色として前古未曾有であるのは京の圖に始めて汽車が通じ「ステーション」又は「ステンショール」といふものが現はしてあること、及枳殻邸に「鐵道寮出張所」といふ名が記してある

ことである。

抑も我國に鐵道の創始されたのは、明治二年十一月、鐵道起業の廟議決定により、東西兩京を通ずる幹線を企て、まづ京濱間工事を起すことを命ぜられたのに始まる。勿論、これよりさき嘉永六年米國使節が蒸氣車を獻進したので、七年二月十六日から、横濱の應接所裏に軌道を敷設し、蒸氣車を組立て、二十三日に之を運轉した事が我國開闢以來汽車あるの嚆矢であつた。その後いろいろの變遷があつて、愈々明治二年起工明治五年七月京濱間鐵道落成。九月十二日車駕親臨して開業あらせられたのであるが、一方京都の方もこれを忽にせず、明治四年四月に京都大阪間の測量が命ぜられ、同六月十六日京都に鐵道寮出張所が出来た。そこで明治五年二月、京都府知事榎村正直をその御用掛とし、三月十五日、東本願寺枳殻邸地坪八千八百九十三坪を代價貳千六百拾八圓にて買収し、そこに出張所を置いたのである。本圖はその當時をしめしてゐて面白い。やがて明治七年には大阪神戸間の鐵道が出来九年七月には大阪向日町間の工事が落成したから、二十八日から運轉を開始し、その年の九月五日には京都大宮に假停車場が出来、十年二月五日になつて愈々京都神戸間鐵道開業、車駕親臨の光榮を擔つたことであつた。やがて翌日の二月六日に京都停車場をひらき、大宮假停車場を廢した。この建設の經費、明治十年度末に貳百七十六萬七千貳百四十九圓と報告されたのである。かくて建設が終つたから明治十年二月二十日京都出張所を廢し、七月にはさきに買収した東本願寺枳殻邸を、原價を以て同寺に賣戻したとは、日本鐵道史の報する所である。御蔭で天下の名苑が今日に保存されたと見てよい。あぶないことではあつた。但し東京京都鐵道の全通した

のは明治二十二年十月のことである。

つぎの淀川を見ると河蒸汽が浮んでゐる。圖する所名代の三十石の貨物船は、四五人の人が陸を引張つてゐるけれども、旅客の舟は帆を張つてゐる中に、堂々たる外輪の蒸氣が、當時の語でいへば「五平太(石炭)」をたいて、甲板の上にはラッパを吹いてゐる水夫が居て、國旗をたてゝいさましく進んで行くではないか、新舊時代のうつりかはりが面白い。

第三 禁裏附近

つぎに本地圖で我々の注意をひくのは烏丸から東、丸太町から北、今出川以南寺町以西の御所區域の中に、新在家や、櫻町、院參町、西院參町、東殿町、西殿町、内丸太町、内樁木町乃至中筋二階町、梨木町、常磐井殿町、眞如堂突抜町、大原口突抜町などいふもとの公家屋敷の町名が猶殘存してゐるのみでなく、今の御苑外廓の御門の位置が全く違つて昔の姿のまゝにあることである。

堺町御門は今は丸太町に面するけれども、當時は九條邸の築山よりも北にあり、下立賣御門も一町程は奥にあり、蛤御門は南面して道路は鍵の手になつてゐた。清和院御門及乾御門共に同様に鍵の手に建つてゐた。寺町御門と、中立賣御門と、今出川御門の位置は今も昔とはかはらぬけれども石藥師御門の如きは今日よりも二町程奥にあつたのである。御苑の御河溝が現状とはやゝ違つて禁裏の東境を限つてゐる。猶又櫻町に面して大宮御所の目の前、紫宸殿の南に京都裁判所があつた。これは有栖川宮御殿をそれに用ひたものである。

同様に珍らしいことは、石藥師御門を入つた左側に師範學校のあることである。これは京都府誌

に明治九年、上京第十一組中筋町舊准后里御殿を以て假校舍とし師範學校を開くところの符を合するものである。

但し同書教育の部に、明治十三年畫學校を創設し上京第十一組中筋町元准后里御殿を假校舍とし授業を開始せり、これ京都市立美術工藝學校の前身なりと記したのはこの師範學校移轉の後のことである。明治十六年の地圖には元の師範學校跡の一部に假に置かれたことが出てゐる。其後明治十五年に河原町の織殿に畫學校が出来、二十二年以後御苑内博覽會跡にそれが移されたもので、筆者も丸太町の學校は猶之を目撃した一人である。

蓋し御苑の建物が取り拂はれて今の形になつたのは諸書多く維新後と記すのみで、明瞭な時日を記さない。しかし明治九年には猶中筋門の名があり、御苑九門の位置も今日とちがつて昔のまゝなのであるから、すべての規模が現狀になつたことは、九年以後である。しかしそれが全く今の形になつたのは極めて新らしいことで、明治年代には久邇宮邸(賀陽宮)が猶下立賣御門通の北側にあつた。大正天皇の御即位に際してこれを撤去せられると同時に全體の苑内の通路がいちじるしく變更されて現狀になつた。しかし御苑が松原芝生になりかけたことは必しも明治九年以後とは斷言が出来ない。何となれば明治四年十月には車駕東遷以後の京都の衰微を挽回せんが爲め、初めて博覽會なるものをひらき、同五年三月には大宮御所及御苑内を大博覽會場として、多くの餘興を行ひ、各遊廊に悠遊して歌舞吹彈の技を以て觀客をひかしたといふ事實があるからである、蓋しこの頃から禁裏の周圍の建物は取り拂はれ、苑内東南の隅には所謂常設博覽會場が出来もすれば、明治十三

年には博覽會場の隣に測候所などをこしらへるやうに變つたのである。之を明治十二年の「京都府區組分細圖」に見ると、苑内の東北には猶師範學校があり、紫宸殿前には櫻町の裁判所が舊の如くであるが、其他大方は芝生となつてゐる。しかし福富正水の同十二年版の京都圖には、禁裏、仙洞久邇宮、及今の主殿寮の一角をのぞいて全部が芝生になつてゐるのみでなく、裁判所も師範學校も共に消えてゐる。蓋し明治十二年には、師範學校は新町出水上ル（今の府廳裏中立賣署の地）所に新築されて、十二月二日新校舍に引きうつたからである。思ふに車駕東行以後御苑内の公家町は追々とかはつたのであるが、特に明治十年を一時期として、その以前と以後との面目は一新したらしい、蓋し明治十年一月二十四日、明治大帝は東京宮城を御出ましになつて、横濱から海路神戸に出でられ、二十七日神戸から鐵道で京都御所に御成りになつた。其後神武陵其他へ御臨幸になり、いろ／＼民の疾苦を訪ね教育産業の御獎勵を遊されたのであつたが、折悪しく西南戰役が勃發したので、二月十六日大阪から京都御所に還幸あらせられ、爾來軍務をみそなはし、同年七月迄御駐蹕になつたからである。後明治十三年再び京都へ御巡幸になつたさうした行幸がある度ごとに御苑内は段々と整理されたものである。思ふに明治十年を一轉機として九門の位置もかはり御苑内のは殆ど芝生に化したのであらう。従つて「組分細圖」の記事は十二年以前の様子であつて、福富正水の十二年版の方が事實に近いものと見るべきであらう。

但し師範學校跡に畫學校の名は明治十六年版に出てくるが、この十二年版には何もかいてない。恐らく師範移轉の後畫學校設立の議まだ成立せざる時の刻成であつたのである。

第四 維新の新しい施設

御苑内の變化のみでなく、本圖にはそれが今日に於て珍らしいことであつたと考へらるゝものが甚だ多い。第一に京都府廳の位置、中學校の位置、もしくは各學區に於ける小學校をはじめ、女紅場、舍密局、授産所、集書院、療病院、女工引立會社、女工本局、女工分局、養蠶場、英學校、四條鐵橋、等全く前代未聞の新設備が、この一幅の地圖中に網羅されてゐることである。凡そこれらの新しい施設は實に明治維新の新政が、いかに我京都市を動かしたかを語るものであつて、やがてこれが日本の教育及産業の上に大きな波紋を起こした楔子であると思へば、誠に涙ぐましい程欣躍の情に溢れざるを得ないであらう。

京都人は由來引き込みで、消極的ではあるとはいへ、かうした先進の設備が明治の初年にいちはやく行はれたことについては、正に大に誇るに足ると同時に、今の世の人々に對しては、沈思一番大に市政更張の勇氣を起さしむるものでなくてはならぬ、筆者はさうした新しい時代の第一頁を読む氣分になつて、こゝにこれらの諸種の簡單な沿革をのべておきたい。

京都府廳 二條城を京都府廳にしたのは、明治四年六月のことであるが、維新の際、明治元年二月十九日京都裁判所が出来、萬里小路博房之が總務となつて、京都の庶政を執行した。當時裁判所の指令によつて、宇治の御茶師などが帶刀を許された文書などが今に残つてゐるのも面白い。さうしてその役所は元の西町奉行（神泉苑の西、御池千本東）であつたが、この裁判所の名は纔か三ヶ月餘で廢止されて、明治元年閏四月十四日、京都府が創設され、長谷信篤が初代の知事となつたの

である。京都府は主として市民を治め、宮、堂上、諸侯等に關する事務はその範圍でなかつた。やがて二年七月二日には府廳を軍務官舊廳にうつした。之を明治二年の地圖に徴すると、恰も京都府は新町下長者町から下立賣まで今の廳舎の地にある。さうしてその南下立賣から丸太町までの間には、兵部省兵隊屯所と記してある。蓋し軍務官舊廳といふのは維新前京都守護職の邸地であつて、即今の府廳敷地である。この際府廳を舊邸に移すやその南にあつた兵隊屯所を開いて今日見るやうな柳を兩側に栽ゑた廣衢が出来たのであるらしい。しかし明治四年六月二十六日には再び府廳を二條城に移したから、こゝに中學校が建てられたものである。府廳は明治十八年六月五日、二條城から再び舊の位置に歸つた時、舊中學校の講堂を正廳にし、その四方にあつた數棟の教室を各課に利用したが、明治三十五年になつて漸く之を改築し三十七年十二月今の洋館建築となつた。昭和二年御大典に際して、その東方の一棟を増築したのである。

本圖はさうした二條城が府廳時代の地圖であつて、よく見るとその東北隅に火見櫓がある、蓋し徳川時代既に市に消防機關として火見所があつて、高樓に鐘が吊してあつた。その中央機關は千本屋敷にあつたので、その時の警鐘は今も京都市役所に残つてゐる。恐らく千本屋敷の火見所を二條城に移してゐたのであらう。

小學校 維新に際して小學校の創立は誠に我京都の誇であり、光である。明治初年京都府は全國に卒先して教育機關を創設し文明の施設をした。これは實に我國近世教育の模範であつて、中央政府をして一時その標準を本府に需めしめたものである。蓋しこれは本府が明治二年に突如として經

驗した車駕東遷の大打撃に際し、官民が一致して善後策として考へつゝいた大事業であつた。教育の普及上進によつて、人心の消沈を挽回せんとした結果であつたが、明治天皇は深く故郷の盛衰を軫念あらせられて、車駕東行に際し、京都市へ米一萬石金拾萬兩を下賜されたのでその一部を以て教育資金としてこゝに日本最初の小學校を建てたのである。

明治元年閏四月京都市府が設置さるゝや、府は京都市を六十四區とし、每區に一箇の小學校を建てることにした。この際府出仕横村正直男の盡瘁は注目に價する。かくて五月二十一日、上京第二十七番組小學校（柳池校）がはじめて開校して普通教育の先鞭をつけ、同年十二月末に市内に六十四校が出来上つたのである。この事は前古未曾有の壯觀であつて、福澤諭吉の京都學校記なるものが、その詳細を語つてゐる。

中學校 福澤諭吉は曰く、

京都の學校は明治二年より基を開きしものにして目下中學と名づくるもの四所、小學校と名づくるもの六十四所あり、市中を六十四區に分つて學校の區別とせしは、彼の西洋に所謂スクールストリツクならん云々、四所の中學校には外國人を雇ひ英佛日耳曼の語學を教ふ云々（明治五年申五月六日記）

蓋し日本の中等教育は元年十二月太政官の皇學所及語學所を京都市に設置せられたのに始まる。しかし翌二年九月に之を廢し十二月大學校をつつたが、やがて之をもやめて太政官から東京、京都二府に中學をつくることを命じた。そこで三年十二月舊所司代邸舎に國學、支那學、洋學の三局を設けて開校した。但し當時國、漢、二局は本校にあつたけれども、洋學局は外にあつた。即歐學

局は獨人リユードルフ、レーマンを教師として河原町二條南(勸業場内)に設けたのであつたが、やがて、明治四年に米人ボールドウキンを聘して、高田別院(河原町夷川南)で英語學を教授せしめた。明治五年には智恩院華頂宮舊邸内で佛人レオンジュリーの佛學教授が始まり、英人イーヴァンスの英語學教場が角倉邸内(河原町二條)に開かれた。英語學の生徒が最も多く最初男生四十五名、女生九十二名と稱せられてゐる。福澤氏の中學と名づくるもの四所ありとは實にこの獨、米、佛、英の四所をさしたことであつた。但しイーヴァンスはよい牧師でなかつたから、一年でエルネストウェットンが代はつた。但し外の教師の中で佛人レオンジュリーの功績が最も大きくその門人で成功したものが多い。詳しくは「京都府誌」を見られたい。

明治五年五月、明治天皇は本府に行幸の砌、親しくこれらの中學に臨御せられて、生徒の學業を天覽あらせられたといふことであるが、かうした些細な中學校に就て、列強互に教師を入れたことは恰も、支那清朝の終末外國教師招聘の事實に類似してゐて何ともいへぬ尻こそばさがあるではないか。

やがて六年六月、今の京都府廳内(舊守護職邸で維新の際軍務官があつた)に和漢學、獨逸學、英學及數學の四教場が新築されたので和漢學數學を新教場にうつし、佛學を高田別院の英學教場に合併した。明治八年三月にはその佛語教場をも閉館したので、英學校のみになつた。

本圖は丁度さうした中學校(その前面には柳の並木のある街が出来てゐる)と勸業場の位置をしめすものである。其後明治十八年中學は寺町丸太町北へ入(今府立第一高等女學校の地)へ新築移轉す

ることになつた。

女紅場 本圖丸太町土手町に女紅場がある。これ實に明治五年四月十四日開校の新英學校及女紅場、英女學校といふものであつた。教師はイーヴンス夫妻であつて、我國女學校の嚆矢である。六年三月以後は英人ウェットン夫妻がやつてきた。蓋し男子の英學校と共通の教員である。七年六月から英女學校となつて男子は中學校へ歸した。明治九年二月から女學校と改め、和漢學を合せて教へ七年十一月には三井高福がやつてきて剪綴を教へた。そこで女紅場といふ名が出来たのである。明治十五年以後女紅場の名を廢止し女學校となり、一時は大谷派本願寺から維持費をうけた。後明治三十二年九月今の校舎にうつつたのである。筆者は嘗て師範學校生徒としてこの寺町丸太町の元の中學校に學び、後に地理の教師として、この第一府立女學校に奉職すること凡九年、今この地圖に對して感慨無慮なるものが存する。

女工引立會社 **女工本局** 女紅場といふ名に似て珍らしいのは本圖に示めす所の今の祇園花見小路にあつた、女工引立會社である。これも明治維新の波瀾を語る一設備である。蓋し明治二年車駕

東幸後京洛の地頓に寂寥を極め遊廓の如き嚆昔の繁華も權花一朝の夢と化した際に、明治五年十月二日太政官達第二百九十五號で遊女解放令が出た。そこで各遊廓は婦女職工引立會社なるものを創立し、藝者遊女を強制的に入社せしめて、裁縫手藝を教へ、専ら浮業を轉じて正業に就かしめるやうにした。知事長谷信篤大に喜んで税金を半減した（明治十四年に至つて税金半減を止む）。そこでこの會社は檢番を置いて營業上の所得を精算配付し、驅微院をひらき、特に祇園遊廓では機織場、

製茶場等を経て遊女に實業的教育を施し、歌舞練場を設けて諸藝を研究したもののである。本圖實にさうした女工本局機械場と、製茶場がある。藝妓共はいつ迄も御茶を引くのはいやであつたと見え、これは間もなく中止されたことであつた。しかしそれでも祇園には今も歌舞練場ののこり、溫習會といふ制度も當時のまゝに傳はつてゐる。當時二條新地といふ一部もあつたが本圖これをしてはゐるが、明治二十一年市區改正の際二條新地は無くなつた。

舍密局及其他の施設 學校や女工場が明治の新しい刺戟をうけたのみでなく、我工業界も空前の改善に際會した。その第一は舍密局である。明治三年十二月の創設で（土手町、夷川上ル）理學、化學を研究し、有用の藥物を精鍊し飲料食物を検し、石鹼、氷糖、珪瑯、嵌陶、玻璃、飯具、木作、圖書等一切の工藝科學をやつたものである。同時に車駕東遷の際の御下賜金で河原町二條（今の京都ホテル）に勸業場を設け、實業家の子弟を海外に派遣した。二條城の北の養鶏場は明治四年四月の開業であつて、植桑養蠶製糸を教へ、明治三年四月には授産所を（中立賣松屋町北）にたて、失産の流民に職業を與へ、河端荒神口下ル（今大學病院精神科）所には假牧畜場をつくつて（明治五年二月）米國より牛羊を買入れ、牛乳、製乳、羊毛を造り、兼て外國教師を雇入れた。本圖はさうした種々新しい試がのせてあるが、歴史の報ずる所によれば、この際製革場、栽培試驗場、製靴場、博物館、織殿、染殿、化芥所等起したのであつた。しかし本圖はそれらの細記に及んではゐない

同志社 新島襄は、元治元年國禁を犯して、海外に遊び苦學の結果、明治七年十二月歸朝したが米國宣教師デヴィス、及京都府顧問山本覺馬の協力を得て、八年十一月同志社英學校を創立した。

校舎は最初は寺町丸太町上ル舊高松邸内(今新島邸)にあつて學生僅に入名であつた。九年になつて相國寺門前町に新築し九月に移轉した。故に本圖は英學校とのみ之を記してゐる。

療病院 明治五年十一月京都府は市内栗田青蓮院内に假病院を開いた。官民協力の結果で榎村參事の幹旋が大であつた。この時獨人レーマンは理化學を講義し、佛蘭人レオンジュリーは羅句語を教へた。それが明治十三年七月になり、今の梶井町に院舎及醫學校が新築されることになつた。本圖にはその建設事務所が今の久邇宮邸の北方に記してあつて、三條殿邸などがそこにのこつて記されてゐる。

一力と梶尾と中村樓 それにしても地圖は時代と共に進歩して、遂には公共の建物でなくても、個人の邸宅でもこれを記入するやうになる。本圖が特に一力と梶尾と中村樓の三つの大きいお茶屋を記した所が面白い。今は梶尾を知る人も少いであらうが、他の二軒は嚴然として營業してゐる。一方に女工引立會社があつて、製茶や機械を教えて正業につかめやうと努力してゐても、流石は京は遊樂の地である。あらゆる個人の邸宅を超越して三つのお茶屋だけが記されてゐるところが面白い。但し本圖の書肆村上勘兵衛の店の位置が併せて出てゐるのは、ぬかりのない本屋であつたといつてよからう。

集書院 最後に本市が誇るべきものは、本圖に集書院と稱する、日本最初の市民圖書館を有つたことである。これは明治五年四月府下の有志の奇附で出來た公共の洋風建物であつて、公衆縦覽館の嚆矢であり、東京圖書館よりも數月もさきに出來てゐたのである。その他三條東洞院、即今の郵

便局の地であるが、當時のデンシンシヨ、と郵便役所はやはりその頃から附近にあつた。

しかし不幸にして集書院の蒐集してくれた書籍の數は少くはなかつたが、文運未だ開けず十五年三月には、その維持さへが出来ぬ程になり、その圖書中寄托のものは、舊に返し、一部は師範や中學に托し、古書洋本は大黒屋に托し、其後洋書は北野神社に預けた。

二十三年京都府教育會が附屬圖書館を開設するに至つて、北野神社に預けた曩の藏書を下付したけれども、かうしたごくさの間に散佚した珍本は蓋し多いことであらう。現に我京都の當時の地圖でさへも、今は容易に之を見ることが出来なくなつたのである。圖書館がそのまゝ續いてゐたならばと思ふ情にたえない。

予はかうしたことを顧みて、たつた一枚の古地圖といへども、機を失せずして之を收蒐する所の人々に敬意を表せざるを得ない。

黒部峡谷と温泉 (圖版第三版附)

石川成章

目次

黒部・泊參照)

- 一、黒部峡谷の今昔。
- 二、地形。
- 三、地質。
- 四、温泉。
- 五、要結。(參謀本部五萬分一地形圖 鉛ヶ嶽・立山)

黒部峡谷と温泉

- 一、黒部峡谷の今昔